

# 2023年12月期 決算説明会

片倉工業株式会社

(コード：3001 東証スタンダード)

2024年2月28日

# 目次

## 1. 2023年12月期 決算概要

連結損益計算書

連結損益計算書／セグメント別実績

連結貸借対照表

連結キャッシュフロー計算書

設備投資額・減価償却費・研究開発費

## 2. 2024年12月期 通期業績予想

連結損益計算書／通期予想

連結損益計算書／セグメント別予想

設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

## 3. 今後の重点施策について

不動産事業について

医薬品事業について

機械関連事業について

繊維事業について

新規事業について

## 4. 基盤となる体制整備

## 5. 株主還元について

## 6. 新企業理念について

# 1. 2023年12月期 決算概要

# 連結損益計算書

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)	2023実績	2022実績	前期増減	2023予想	予想との差異
	A	B	A-B	C	A-C
売上高	<b>39,972</b>	34,274	5,698	38,500	1,472
営業利益	<b>3,803</b>	1,369	2,434	2,850	953
営業利益率	<b>9.5%</b>	4.0%	5.5pt	7.4%	2.1pt
経常利益	<b>5,068</b>	2,582	2,486	4,000	1,068
特別利益	<b>804</b>	1,199	▲ 395	—	—
特別損失	<b>1,309</b>	—	1,309	—	—
税引前利益	<b>4,563</b>	3,781	782	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>3,045</b>	2,817	228	2,600	445

## ■ 前期対比

### 【売上高・営業利益】

- 医薬品事業において、自社販売体制への商流切り替えのための一時的な販売減からの回復等により全体として増収・増益。  
(各セグメントの詳細は次ページ)

### 【特別利益】

- 固定資産売却益 ▲463M (前期463M→当期なし)

### 【特別損失】

- 減損損失 +741M (前期なし→当期741M)
- 割増退職金 +567M (前期なし→当期567M)

## ■ 予想対比

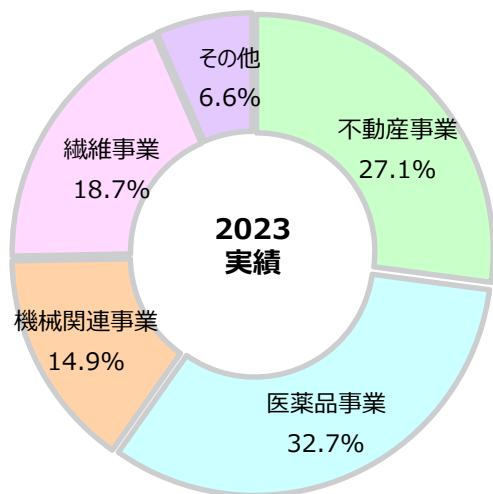
不動産事業における「コクーンシティ」の売上好調推移のほか、繊維事業では機能性繊維の高付加価値製品の販売好調により、売上高および営業利益以下の各段階利益は、予想を上回る。

## 連結損益計算書／セグメント別実績

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)	2023実績		2022実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	10,833	3,985	10,415	3,946	① 417	39
医薬品事業	13,059	202	10,128	▲ 1,940	② 2,931	2,142
機械関連事業	5,972	▲ 83	5,187	▲ 275	③ 785	192
繊維事業	7,481	706	7,045	443	④ 435	263
その他	2,625	144	1,497	150	⑤ 1,128	▲ 6
調整額	-	▲ 1,152	-	▲ 955	-	▲ 197
合計	39,972	3,803	34,274	1,369	5,698	2,434

セグメント別売上高構成比



## ①：不動産で増収・増益

- ・ ショッピングセンター「コクーンシティ」におけるテナントからの賃料収入の増加により増収・増益

## ②：医薬品で増収・増益

- ・ 前期の自社販売体制への商流切り替えのための一時的な販売減からの回復により増収・増益

## ③：機械関連で増収・増益

- ・ 消防自動車事業で、シャシ(※)の入庫遅れにより繰り越した案件や大型車の売上の寄与により増収・増益  
※自動車のエンジン、シャシフレーム等走行に係る基本部分（車体）をいう。

## ④：繊維で増収・増益

- ・ 耐熱性繊維等の機能性繊維及び実用衣料の肌着の販売が堅調に推移したことにより増収・増益

## ⑤：その他で増収ながらも減益

- ・ 当期2023年度より連結子会社化した東近紙工株式会社および株式会社カタクラ・クロステクノロジー（旧 株式会社 F P Gテクノロジー）の寄与により増収
- ・ ビル管理サービス事業での労務費の増加等により減益

## 連結貸借対照表

2023.12 決算説明会

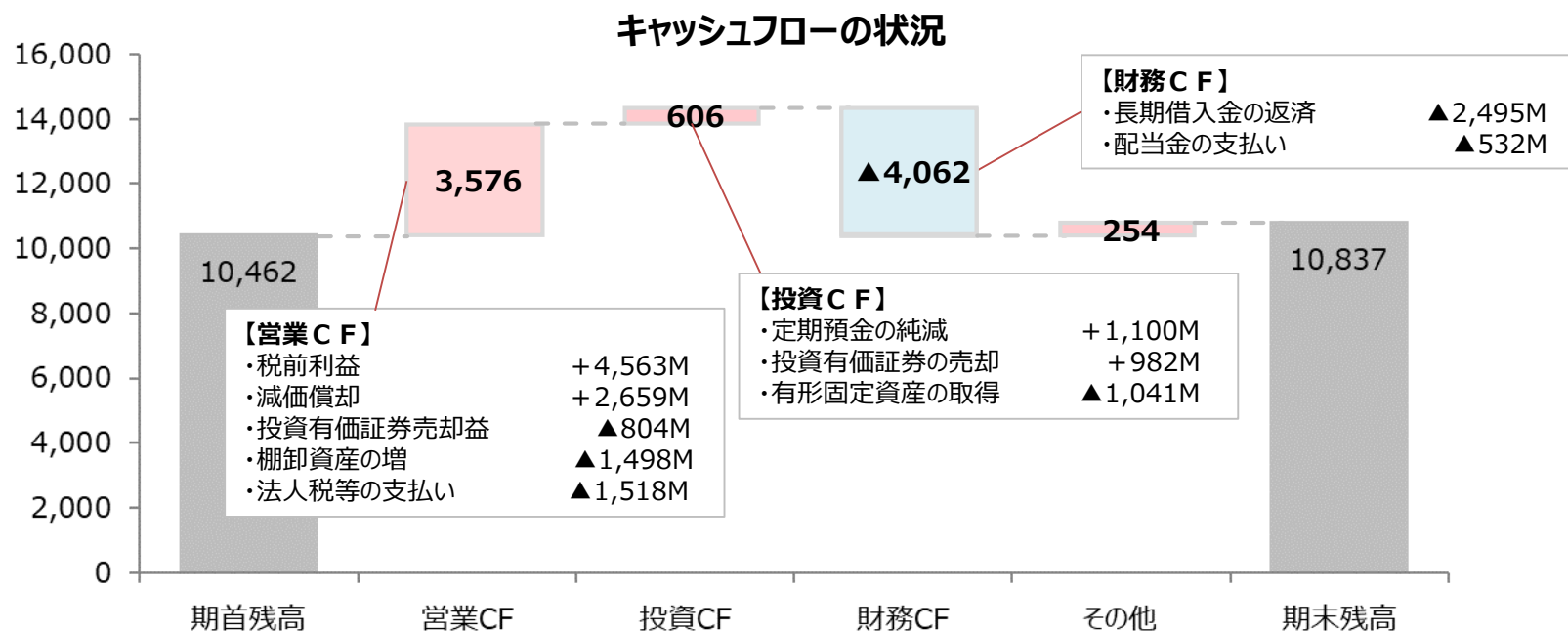
(単位：百万円)		2023.12	2022.12	前期増減	
		A	B	A-B	
流動資産		57,151	56,379	772	
固定資産		82,459	81,734	725	
	有形固定資産	41,573	43,171	▲ 1,598	・ 償却による減
	無形固定資産	632	337	295	
	投資その他の資産	40,253	38,226	2,027	
	投資有価証券	35,657	34,408	1,249	・ 投資有価証券の時価上昇影響
	資産合計	139,611	138,114	1,497	
負債合計		50,246	53,638	▲ 3,392	
	支払手形及び買掛金	4,279	4,823	▲ 544	
	借入金	11,105	13,912	▲ 2,807	・ 約定弁済による減
	繰延税金負債	10,306	9,698	608	
純資産合計		89,365	84,475	4,890	
	利益剰余金	52,160	49,247	2,913	・ 当期純利益計上による増
	其他有価証券評価差額金	16,995	15,466	1,529	
	負債・純資産合計	139,611	138,114	1,497	

## 連結キャッシュフロー計算書

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)	2023実績	2022実績
現金及び現金同等物の期首残高	10,462	10,813
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,576	▲ 712
投資活動によるキャッシュ・フロー	606	3,623
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 4,062	▲ 3,262
現金及び現金同等物の増減額	120	▲ 351
その他 (※)	254	-
現金及び現金同等物の期末残高	10,837	10,462

(※)：連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額



## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)		2023実績	2022実績	前期増減
		A	B	A-B
	不動産事業	302	103	199
	医薬品事業	587	564	23
	その他のセグメント	324	283	41
設備投資額		1,213	950	263

	不動産事業	1,359	1,490	▲ 131
	医薬品事業	827	791	36
	その他のセグメント	473	397	76
減価償却費		2,659	2,678	▲ 19

	医薬品事業	2,235	2,325	▲ 90
	その他のセグメント	145	78	67
研究開発費		2,380	2,403	▲ 23



## 2. 2024年12月期 通期業績予想

## 連結損益計算書／通期予想

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)	2024予想	2023実績	前期増減
	A	B	A-B
売上高	<b>40,700</b>	39,972	728
営業利益	<b>3,600</b>	3,803	▲ 203
営業利益率	<b>8.8%</b>	9.5%	▲ 0.7pt
経常利益	<b>4,600</b>	5,068	▲ 468
親会社株主に帰属する当期純利益	<b>3,000</b>	3,045	▲ 45

## 【売上高・営業利益】

- 増収・減益の見通し（各セグメントの詳細は次ページ）

## 連結損益計算書／セグメント別予想

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)	2024予想		2023実績		前期増減	
	A		B		A-B	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
不動産事業	10,800	3,700	10,833	3,985	① ▲ 33	▲ 285
医薬品事業	12,800	200	13,059	202	② ▲ 259	▲ 2
機械関連事業	6,700	100	5,972	▲ 83	③ 728	183
繊維事業	7,600	800	7,481	706	④ 119	94
その他	2,800	100	2,625	144	175	▲ 44
調整額	-	▲ 1,300	-	▲ 1,152	-	▲ 148
合計	40,700	3,600	39,972	3,803	728	▲ 203

- ①：不動産では、前期並みの売上高を見込むも、営業利益は固定資産税の上昇や、既存物件の維持管理コストの増加等により、減益を見込む
- ②：医薬品では、薬価改定影響を新規後発品等の販売で補填しきれず減収も、各種コスト削減に取り組むことで、営業利益は前期並みの着地を見込む
- ③：機械関連では、高単価製品の販売や生産体制の効率化により、増収・増益を見込む
- ④：繊維では、機能性繊維の売上伸長等により増収・増益を見込む

➡各セグメントの詳細は、P13ページ以降の「今後の重点施策について」に記載

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費予想

2023.12 決算説明会

(単位：百万円)		2024予想	2023実績	前期増減
		A	B	A-B
	不動産事業	581	302	279
	医薬品事業	400	587	▲ 187
	繊維事業	855	158	697
	その他のセグメント	366	166	200
設備投資額		2,202	1,213	989

	不動産事業	1,410	1,359	51
	医薬品事業	793	827	▲ 34
	その他のセグメント	584	473	111
減価償却費		2,787	2,659	128

	医薬品事業	2,070	2,235	▲ 165
	その他のセグメント	125	145	▲ 20
研究開発費		2,195	2,380	▲ 185

### 3. 今後の重点施策について

## 不動産事業について

2023.12 決算説明会

### ■ 24年度の見通しについて

- ◆コクーンシティは、戦略的なテナント入替や集客イベント等の実施により好調推移となるほか、東京スクエアガーデンも順調にテナントの入れ替えが進み、売上は前年並みの見込み。
- ◆一方で、さいたま新都心社有地における租税上昇の影響や、地方物件を中心に経年に伴う修繕工事等、建物設備の維持管理コスト増加により、営業利益は前期対減益の見込み。

### ■ 今後の取り組みについて

- ◆コクーンシティの継続した競争力強化。
- ◆さいたま新都心社有地周辺におけるオフィス、マンションの開発やさいたま市役所の移転計画（2031年度）等、街の成長・発展と合わせて当社開発を計画。
- ◆その他不動産については、経年による老朽化への対応等物件ごとのライフサイクルに合わせ、維持管理を適切に行い、収益物件としての価値を持続。
- ◆構造改革の結果生じたトーアエイヨー(株)東京研究所（埼玉県さいたま市）等、グループ不動産については、活用を早期に具体化。

## 医薬品事業について

事業環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日本国内における薬価改定により売価下落</li> <li>◆長期収載品の選定療養化による販売数への影響</li> </ul>
新薬の販売状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆トルバプタン錠（7.5mg製剤：22年6月発売、15mg製剤：22年12月発売）</li> <li>◆ベプリジル錠（50mg・100mg：24年2月5日発売）</li> </ul>
開発状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆CNT-01（希少疾病用医薬品/中性脂肪蓄積心筋血管症治療薬） 【国内第Ⅱb/Ⅲ相臨床試験】</li> <li>◆ビソノ®テープの中国展開（経皮吸収型・β1遮断剤）【第Ⅲ相臨床試験】</li> <li>◆既存薬の適応拡大</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆構造改革の継続実施 （東京研究所の閉鎖。営業体制の見直し。新工場棟建設計画の中止。）</li> <li>◆CNT-01（希少疾病用医薬品）価値最大化に向けた取り組みの実施 （専門チームを立ち上げ、希少疾病の啓発活動等を実施）</li> <li>◆既存品及び研究開発品目の海外への導出検討</li> </ul>

## 機械関連事業について

### ■ 24年度の見通しについて

#### 受注減は解消も、シャシ在庫遅れは継続見込み

- ◆ 新型コロナウイルス影響による自治体の需要減少は過年度に解消済み。
- ◆ 一方で、車載用半導体の不足や、法規制によるモデルチェンジの影響によるシャシ在庫遅れは継続しており、完全な遅延解消には数年を要する見込み。

#### 24年は前期対増収増益で黒字化を見込む

- ◆ 高単価製品の販売により増収。
- ◆ シャシ在庫遅れに対応するため、先行・見込み生産による生産効率化を図るとともに、過年度から取り組んでいる車型の集約化・標準化を進めることで増益を見込む。

### ■ 今後の取り組みについて

#### 生産効率化の継続に加え、収益拡大に向けた対応を実施

- ◆ 高単価製品の販売強化
- ◆ 販売体制の効率化及びルール整備
- ◆ 営業人材の育成強化



## 繊維事業について

### ■ 機能性繊維事業について

**耐熱性繊維の工場設備用途、水溶性繊維の自動車内装用途等を中心に売上増を見込む。**

- ◆ 海外市場も含めた新規の顧客開拓を進める。
- ◆ 素材の持つポテンシャルを踏まえた用途開発を推進。
- ◆ さらなる事業成長のため、生産能力の増強を計画。

### ■ 実用衣料事業について

**機能性インナーのさらなる展開拡大・商品開発に取り組む。**

- ◆ 機能性インナーは、チャネル別の営業活動を推進し、トップラインの引き上げを図る。
- ◆ 2023年5月に実施した実用衣料事業の組織統合による共通機能の集約により、一層のコスト圧縮を図るとともに、両社の知見・ノウハウを活かした商品開発を推進。

新規事業について

■ 昨今M&Aにより取得した企業

- ◆ (株)カタクラ・クロステクノロジー (以下、KXT) …IT事業
- ◆ (株)ガーデンエクスプレス (以下、GE ) …植栽事業

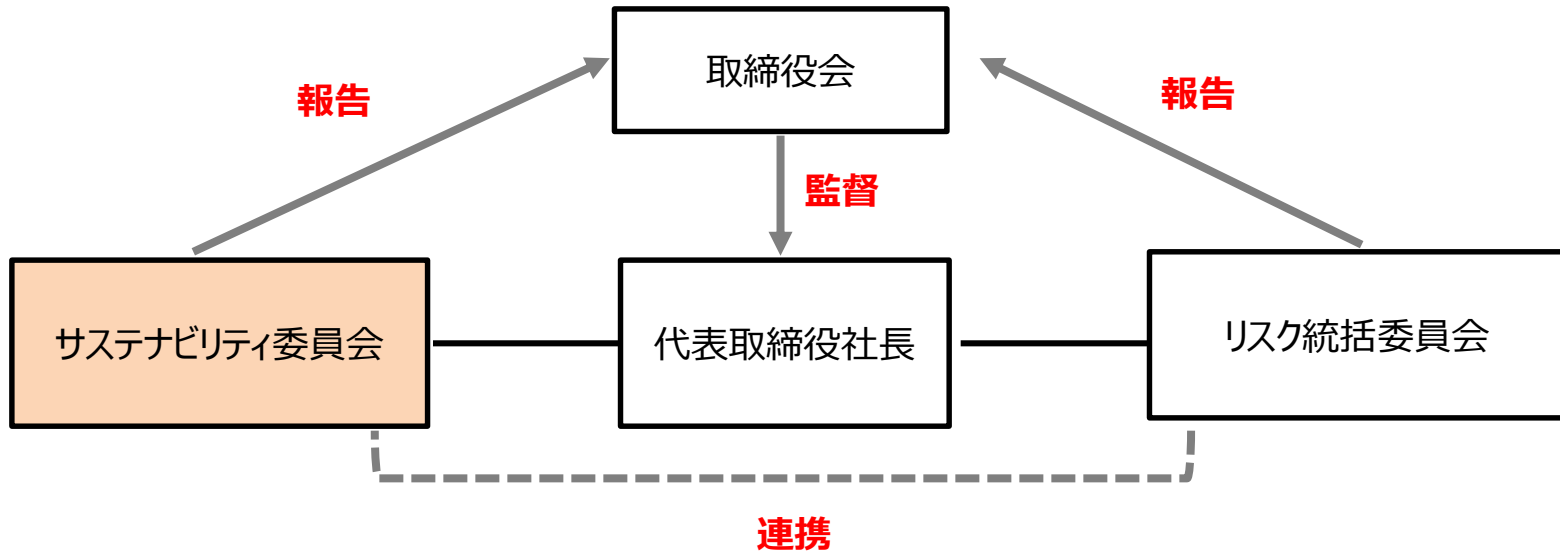
■ 取得後の各社の経過

区分	足許状況と方向性
KXT	<p>安定的な事業基盤を構築するため、人員体制の強化を推進。                      また、グループ内シナジーの獲得に向け、不動産事業では将来的なDX強化、                      その他グループ企業においても、生産管理システムや顧客関係管理の強化                      を見据えた検討を開始。</p>
GE	<p>現在、PMIを着実に進めている段階。                      企業成長を目指す上で新規代理店の拡大に注力。</p>

- 今後においても、グループの中長期的な企業成長を見据え、  
 M&A案件の内容を精査しながら、慎重かつ前向きに検討を重ねる方針。

## 4. 基盤となる体制整備

## 基盤となる体制整備



### ■ ガバナンス

- ◆ サステナビリティ施策の効果的な推進を目指し、2023年10月に「サステナビリティ委員会」を設置。  
サステナビリティに関する当社グループの方針の立案、共通課題の検討、推進状況のモニタリングを行う。
- ◆ リスク統括委員会とも緊密に連携し、すべてのリスクを包括的に捉え、取締役会に報告する体制を整備。

### ■ 人的資本に関する考え方

- ◆ 2019年から段階的に人材活性化のための各種施策を導入し、継続的に実施。
- ◆ 規律を重んじつつも多様性を認め合う組織を目指し、年齢・性別・経歴にとらわれず、個々の能力・専門性・人格を重視した採用を実施。人材は競争力の源泉であるとの考えのもと、育成に注力。

## 5. 株主還元について

## 株主還元（利益配分）

### <株主還元方針>

利益の配分については、安定的な配当の実施に努めるとともに、資本効率の向上等を目的として適宜機動的な自己株式取得を実施することとしております。総還元性向については、特殊要因(※)を除き、**親会社株主に帰属する当期純利益の30%程度を目安**として、利益還元に努めてまいります。

(※)：一時的な損失や利益計上により、当期純利益が大きく変動する場合を想定しております。

### ■変更の理由

当社は、株主の皆様への利益還元を、経営上重要な政策の一つに位置付けております。

株主還元方針については、業績や将来の事業展開等と株主還元のバランスを念頭に、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現するため、検討を重ねてまいりました。

その結果、従来の「安定的な配当の継続」を基本としつつ、業績、財政状態及び株価水準等を総合的に勘案しながら、株主の皆様へ充実した利益還元を実施するために、上記のとおり方針を変更することといたしました。

	FY2022	FY2023	FY2024(予想)
1株当たり配当金	16円	20円	20円
配当総額	532百万円	663百万円	—
自己株式取得額	165百万円	239百万円	(注)
総還元性向	24.8%	29.7%	—

(注)適宜検討を実施。

## 6. 新企業理念について

## 企業理念の刷新及び通称社名・ロゴ制定について

### ■本件の背景

当社は1873年の創業以来、時代とともにかたちを変えながら様々な事業を行って参りました。

2023年に創業150周年を迎えたことを契機に、変化の激しい時代の中で、今後の10年、20年先の未来に向けて、私たちが大切にすべきことを改めて明確化し、役員・全従業員の羅針盤とすること、そして、ステークホルダーの皆様と共有化を図るべく、新たに整理したものです。

ミッション  
Mission

昨日よりもっと、  
なくてはならない存在へ。

わたしたちの価値観  
Our Values

### 積み重ねを、楽しもう。

あたりまえこそ、  
大切に。

どんな仕事も、“あたりまえ”の  
積み重ねからできている。  
いつだって真剣に。  
当事者意識をもって取り組めば、  
物事の本質が見えてくる。  
一人ひとりの小さな積み重ねが、  
やがて大きな違いになる。

良き挑戦者であらう。

良き挑戦は、価値を創造し、  
自身を成長させてくれる。  
毎日、自分をアップデートして、  
前進していこう。  
一人ひとりの挑戦が、  
会社を成長させるための  
原動力となるから。

チームで、  
最高を叶える。

誰にも尊敬の念を持ち、  
本音で語り合う。  
その上で、一度決まったら  
全員がそれを全うする。  
仲間のために、全力で。  
一人では実現できないことでも、  
みんなの力を積み重ねれば、  
成し遂げられるから。

### ■通称社名の採用について

当社は「カタクラ」を通称社名に採用いたしました。  
今後、HPや印刷物に積極的に通称社名を使用して参ります。

※なお、正式社名は「片倉工業株式会社」から変更ありません。

### ▽コーポレート・ロゴ

KATAKURA

### ▽コーポレート・カラー



### Integrity Red (インテグリティ・レッド)

「正しく生きること、事にあたり、道理や道義をわきまえて  
正しい判断、行動をすること」という意味を込めた  
“Integrity Red”をコーポレート・カラーに採用しました。  
変化を恐れず誠実に挑戦する姿勢、“なくてはならない存在”を  
目指し続ける情熱、チームや繋がりを感じさせる温かみを、  
このカラーで表現しています。